

## 山口東京理科大学(薬学部)における地域連携

### 1) 県と県薬剤師会・製薬工業協会との連携事業（地域連携）

#### 【県との連携】

- ・山口県地方薬事審議会の会長就任(薬学部教授)
- ・山口県環境審議会の委員就任(薬学部教授)
- ・県健康福祉部薬務課と定期的(2回/月程度)に情報交換
- ・薬学授業(1年生対象)として、県庁1日訪問(ほかに、製薬企業、病院、薬局にも訪問)
- ・山口県エキスパート薬剤師(健康サポート等を支援する薬剤師)の学術的助言)
- ・県健康福祉部薬務課及び商工労働部、産業戦略部等の施策事業対応(学術に関するもの)
- ・県立総合医療センターと包括連携協定(R4.10)→薬学の人材育成及び地域医療の発展に寄与

#### 【県薬剤師会等との連携】

- ・県薬剤師会と包括連携協定→薬学生の受入れ、地域連携活動等
- ・県病院薬剤師会と包括連携協定→知的・人的交流等と地域の健康・医療・福祉の発展に寄与
- ・県薬剤師会と定期的(2回/月)に情報交換
- ・県薬剤師会月刊誌に研究室紹介枠
- ・サイエンス・カフェ(薬学生と地元薬剤師との語らいの場 年数回)の開催

#### 【県製薬工業協会との連携】

- ・製薬工業協会事務局を大学施設内に貸出
- ・山口県 GMP カレッジ<sup>\*</sup>への共同参画  
(実施内容)
  - 1年生:製薬企業の GMP 取組について紹介
  - 2年生:ワークショップの開催(薬学生と企業若手従業員の意見交換等と工場オンライン見学)
  - 3年生:製薬企業による出前講義
  - 4年生:薬学生の工場見学
  - 5年生:薬学生の工場見学(実技や分析)

<sup>\*</sup> 協会、大学、県の産学公連携により、製薬企業向けの人材育成・確保及び育成プログラムの作成・実施

### 2) 市と市薬剤師協会との連携事業

#### 【市との連携】

- ・薬学部教員が会議委員に就任
  - ① 山陽小野田市健康づくり推進協議会
  - ② 山陽小野田市健康づくりの推進に関する医療保健専門職団体プロジェクト会議
  - ③ 山陽小野田市スマイルエイジング推進本部
- ・スマイルエイジング薬局推進事業(薬機法の健康サポート薬局の市独自版)への協力
  - ① 大学での薬剤師向け研修(2回/年)
  - ② 健康フォーラムを開催

- ・スマイルエイジング健康講座(市主催の外部講師として薬学部教員が講演)
- ・SOS 健康フェスタ(市主催に参加し、地域の方に健康に関する情報等を発信)
- ・山陽小野田市民病院との包括連携協定→知的・人的資源の交流や医療・保健・福祉の発展に寄与

### 【市薬剤師会等との連携】

- ・連携協定を締結により、地域にかかる様々な健康、医療、福祉の発展・向上に協働して対応  
→一例:薬学生が「残薬」の知識や解決方法等に関する啓発ポスターを制作 etc.

## 3) 病院との連携

### 【連携協定】

- ・山口県立総合医療センター(再掲)  
R4.10 薬学の人材育成をとおして地域医療の発展に寄与することが目的
- ・山陽小野田市民病院  
R2.12 知的・人的資源の交流及び活用と、地域の医療・保健・福祉の発展に寄与することが目的
- ・山口県病院薬剤師会(再掲)  
R1.8 知的・人的資源の交流及び活用と、地域の健康・医療・福祉の発展に寄与することが目的

### 【授業】

- ・早期体験学習(再掲)  
薬剤師(薬学人)が活躍する医療現場、保健、衛生、行政に関わる病院等を見聞・体験することで、薬学生(1年生対象)の勉学に対するモチベーションを高め、夢と心構えがもてる体験学習
- ・学術と地域文化  
山陽小野田市、山口県内外で活躍されている方々による医学・薬学等及び周辺で実施されている教育・研究に関わる最先端のトピックス等を聞き、物事を多角的にみる能力を養う  
→今年度、山口大学医学部大学院や山口労災病院等の講師を迎え、講演
- ・病院薬局実務実習  
病院薬剤師の業務と責任を理解し、調剤等の薬剤師業務の基本的知識、技能、態度を修得  
→山陽小野田市民病院、山口大学医学部附属病院や地元病院の全面的な協力で実施

## 4) 文部科学省の補助金事業を活用した、地域の保健・医療環境の向上等

### 【ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業】

- ・遠隔医療等に関する教育設備の導入  
→ローカル5GとAI感情解析ソリューションを用いたオンライン服薬指導実習の高速化と深化
- ・実習等に資するシミュレータ等のDX設備整備  
→メガネ型ウェアブル端末を用いた臨床薬学事前実務実習の技能習得の効率化と深化

### 【リカレント教育事業】

- ・薬剤師のDX分野等スキルアッププログラム  
子育て等で離職中の女性薬剤師や、これから薬局経営を目指す薬剤師が、DXの手法を活用して、即戦かつ実践的な知識や起業精神を身に着け活躍してもらうことが目的

## 5) 小学校から高校までの薬学部教員による出前授業など

### 【出前講義】

主に薬や健康に関するテーマで授業を実施

高校参加数・・・10件 実施一覧(11/8時点)

### [ほんものの科学体験講座]

・市教育委員会と連携協力し、市内全ての小・中の学校で、薬学部教員ほかが出前講義を実施

### [おくすり教室]

・薬学生と薬学教員が市内小学校で「薬の正しい飲み方 ～体験学習～」を、座学や実験により実施

### [夏休みジュニア科学教室]

・(公団)やまぐち産業振興財団が主催で、県内の小・中学生に対して、実験等の体験を通して、科学技術に対する興味を喚起し、考える力や創造力を育成することを目的としており、本学教員も参画

### [願いが叶う街プロジェクト]

・商工会議所が市内小学生を対象に「願いが叶う街プロジェクト」を開催し、一部プロジェクトにて協力

→①人体の科学と薬剤師体験(薬学教員1人)

②薬を作る体験(薬学教員3人)

## 6) 市民向けの生涯教育

### 【大学開放授業】

薬学生が受けている授業の一部を、市民に公開する「大学開放授業」を実施（今年度4人受講）

### 【大学開放デー】

市民向けに、大学全体を開放し、薬学部教員による科学実験体験コーナーや講演会を実施

### 【薬草による健康づくり講座】

・地元市民に薬用植物をキーワードにアクティブに学ぶ薬草講座を開催(今年度全10回)

(主催:地元スポーツクラブ、後援:(公財)山口県体育協会・生涯スポーツ推進センター、山陽小野田市、本学は共催として参画)

## 7) 市・商工会議所との連携事業

### 【商工会議所会報による研究紹介】

・地元企業に本学の薬学研究技術を知っていただくため商工会議所会報に、毎月掲載

<2021年度は次のとおり>

- ① 生体内シグナル分子としての硫化水素とポリサルファイドの研究
- ② リウマチ膠原病系骨粗鬆症の副甲状腺ホルモン製剤治療継続率と安全性等に関する検討
- ③ 免疫機能の解析から老化関連疾患を予想・制御
- ④ 世界の情報から薬事規制分野で対応が必要な新しい技術の予測 ほか

### 【地域課題解決研究】

・地域の困りごとについて研究課題を募り、本学の教員が課題解決に向けた研究の取組を実施  
(今年度は、薬学教員が9件に対応)

## 8) 産業界との連携事業(製薬業界を除く)

### 【産学公による大学オリジナルクッキーの開発】

- ・市内の菓舗と薬学教員(生薬系)が共同で、おいしく体にいい「はぶ茶ワーズ」の開発  
→生薬研究成果をマッチングすることで、約9か月をかけ商品化に成功

## 9) 今後、どのような関わりをもととされているのかについて

山口県薬剤師会は、昭和の30年代から薬学部開学を念願しており、平成30年によく悲願を達成したものであり、業界からの期待や要望は想像を超えたものと大学側は認識しております。

また、人口減少が進む中で、地方の活性化が山陽小野田市や山口県では最大の行政課題であることから、公立の本大学では、若い学生が1,000人規模で集まる学びの舎として、地域への貢献や期待や注文も届いております。

さらに、大学周辺住民や山陽小野田市民さらに県民からも何かやってくれるのではないかという熱い視線がそそがれていることもひしひし感じております。

こういった住民、業界、行政等の御期待に応えるため、大学としては、積極的に皆様方からのさまざまな意見をお聞きし、タイムリーに対応していく所存であります。

一部具体的な内容を述べさせていただきますと、時代のニーズに応えるべく新たな学科等の創設を進めているところであるとともに、学生の県内就職への強い働きかけを始めたところです。

また、学校環境や設備の整備充実強化を図っているところです。

このほか、山陽小野田市や山口県と連携して、地域課題について種々の助言や共同解決策を講じております。

最後に、大学がもつ「知」の強みを最大限発揮して、さまざまな貢献を積極的に行ってまいりたいと思っております。